

日時 2025年 4月 19日(土) 14:00-17:00

会場 オンライン：zoom
集会：国立健康危機管理研究機構 (JIHS) 国立国際医療センター
(東京都新宿区戸山1-21-1)

近年、新しい分子標的薬や免疫療法の導入により小児・AYA世代(思春期から若年成人)のがん患者の生命予後は飛躍的に改善しています。しかし、新規治療薬の一部には性腺機能に影響を及ぼす可能性があり、その影響は生殖機能の低下にとどまらず、脂質代謝、骨代謝、認知機能など長期的な健康リスクに広がります。特に挙児を希望する患者にとって、性腺機能への影響は意思決定において極めて重要な情報です。しかし現状では、多くの新規抗がん薬において性腺機能に関する十分なデータが治験で収集されておらず、医療者や患者が情報不足に直面しています。この課題を解決するため、日本がん・生殖医療学会では国や関係機関と連携し、治験における性腺機能関連データの収集推進を求める活動を行っています。そこで、関連する二つの研究班が合同でシンポジウムを開催し、新薬がもたらす課題や最新の取り組みを共有し、がんサババーの健康管理を支える方策について議論します。皆様のご参加をお待ちしております。

第1部 14:20-15:25

総合司会：鈴木直(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)

ごあいさつ

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課

イントロダクション

清水千佳子(JIHS 国立国際医療センター乳腺・腫瘍内科兼がん総合診療センター)

「本邦におけるがん・生殖医療の取り組み」

高井泰(埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 / 日本がん・生殖医療学会理事長)

「性腺障害の観察研究」

森重健一郎(大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター生殖医療センター)

「患者の生きるを支える情報」(ビデオメッセージ)

桜井なおみ(カンサーソリューションズ株式会社 / 一般社団法人 全国がん患者団体連合会)

予定(ビデオメッセージ)

Ann H. Partridge, MD, MPH (Dana-Farber Cancer Institute)

「製薬企業が考えるがんサバイバースhipへの取り組み」

バスタンファルド アーミン(医師、医学博士 / 元製薬企業シニアメディカルディレクター)

第2部 総合討論 15:45-17:00

総合司会：清水千佳子(JIHS 国立国際医療センター 乳腺・腫瘍内科兼がん総合診療センター)

高井泰(埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 / 日本がん・生殖医療学会理事長)

パネリスト：

西山博之(筑波大学医学医療系 腎泌尿器外科学)

田村研治(島根大学医学部附属病院 腫瘍内科 / 先端がん治療センター)

バスタンファルド アーミン(医師、医学博士 / 元製薬企業シニアメディカルディレクター)

天野慎介(一般社団法人 全国がん患者団体連合会理事長)

米村雅人(国立がん研究センター東病院 薬剤部)

菅家智史(福島県立医科大学医学部総合内科・総合診療学講座)

寺内公一(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科女性健康医学講座)

鈴木直(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)

主催：

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究「小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究-サバイバースhip向上を志向して(23EA1016)」
研究代表者：鈴木直(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究「小児・AYA世代のがん経験者の健康アウトカムの改善および根治困難ながんと診断されたAYA世代の患者・家族の生活の質の向上に資する研究(23EA1017)」
研究代表者：清水千佳子(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 乳腺・腫瘍内科兼がん総合診療センター)

後援：一般社団法人 日本がん・生殖医療学会

小児・AYAがんサバイバー 抗がん剤治療と性腺機能



URL：
https://zoom.us/webinar/register/WN_SvfgGJIGTc-ZHn-k7D6i-w

申込方法(参加費無料)

QRコードもしくはURLよりお申し込みください

